

令和3年度（2021年度）第1回

新千歳空港の24時間運用を巡る千歳市地域協議会

議 事 録

日 時：令和3年10月30日（土）午前10時開会  
場 所：千歳市祝梅コミュニティセンター

令和3年度（2021年度）第1回 新千歳空港の24時間運用を巡る千歳市地域協議会

・日 時 令和3年10月30日（土）10：00～11：20

・場 所 千歳市祝梅コミュニティセンター 1階 4号室

---

・議 題

- （1）新千歳空港における最近の動向について
  - （2）令和2年度航空機騒音測定結果等について
  - （3）住宅防音対策の進捗状況等について
  - （4）地域振興対策の進捗状況等について
  - （5）新千歳空港周辺地域振興基金について
  - （6）その他
- 

◎地域委員 出席者（20名）

◎北海道（7名）

◎（公財）新千歳空港周辺環境整備財団（2名）

◎千歳市（6名）

<オブザーバー参加>

◎北海道エアポート株式会社（4名）

## 1. 開 会

●千歳市（空港政策課長） 皆さん、おはようございます。

まだいらっしゃらない方もおられますが、定刻となりましたので、始めさせていただきますと思います。

協議会の開会に先立ちまして、皆様へのご案内とお願いがございます。

本日は、新型コロナウイルス感染症の再拡大防止といたしまして、人と人の距離の確保、検温の実施、会場内の換気、マイク等の消毒の徹底、会場入り口付近への注意喚起ポスターの掲示など、新北海道スタイルの取組を実践しての開催となります。

また、北海道コロナ通知システムへのメールアドレスご登録のお願いといたしまして、お手元に配付しておりますが、こちらのQRコードを読み取っていただき、ご登録いただきますと、本日、施設を利用した方の中から、万が一、感染者が確認された場合は、行動履歴を基に、同じ日に同じ施設を利用していたことと体調管理の注意喚起をメールでお知らせいたします。

本システムへの登録について、ご協力をお願いいたします。

また、皆様におかれましては、マスクの着用と咳エチケットの徹底につきまして、改めてご協力をいただきますよう、よろしくをお願いいたします。

本日の開催に当たりましては、感染拡大の防止対策を講じているところではありますが、万が一、本日出席された方で感染が分かった場合につきましては、お手数ではございますが、事務局である市の空港政策課までご連絡いただければと思います。よろしくをお願いいたします。

それでは、ただいまより、令和3年度第1回、通算55回目となります新千歳空港の24時間運用を巡る千歳市地域協議会を開会いたします。

本日の協議会は、お手元に配付しております次第に沿って進めてまいります。

## 2. 挨拶

●千歳市（空港政策課長） はじめに、北海道総合政策部交通企画監よりご挨拶を申し上げます。

●北海道（交通企画監） 皆様、おはようございます。

委員の皆様方には、本日、土曜日にもかかわらず、朝早くからこの協議会にご参加いただき、ありがとうございます。

また、日頃から、新千歳空港の24時間運用並びに道の航空行政にご協力、ご理解をいただきまして、重ねて感謝を申し上げます。

さて、新千歳空港においては、新型コロナウイルス感染症の拡大によりまして、国際線の旅客数がゼロとなるなど、令和2年度の旅客数が令和元年度に比べて約7割減の64.4万人となっておりまして、旧千歳空港時代の1986年以来、34年ぶりに1,000万人を割り込んだという厳しい状況を迎えております。

こうした中、新型コロナウイルス感染症につきましては、この秋を迎えて、新規感染者数や病床使用率等について大幅に改善され、全国における緊急事態宣言が解除されるとともに、国におきましても、行動制限の緩和が行われているところでございます。

このような状況を受け、道では、まずは域内の移動を促すため、10月15日から、同居者による旅行支援である「新しい旅のスタイル」、それから、公共交通機関を利用した移動を支援する「ぐるっと北海道」並びに「Go To Eat」を現在、再開しております。

引き続き、感染症の再拡大の防止に努めながら、来月11月1日からは、こういった取組を全道に拡大して行うことを決定しておりまして、さらには、今後、道外への移動など、航空需要が段階的に拡大するよう着実に取り組むということで、新千歳空港に活気が戻ってくるよう、我々としては全力を尽くしてまいりたいと考えております。

道としては、このコロナ禍においても、皆様とお約束いたしました30枠合意において、住宅防音対策、地域振興対策につきまして、千歳市、財団、北海道エアポート株式会社との連携の下、着実に進めていくことが大切であると考えておりますので、この後、進捗状況などについて担当よりご説明させていただきます。

本日の地域協議会では、皆様方から忌憚のないご意見を頂戴できればと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私からの挨拶は以上でございます。

●千歳市（空港政策課長） ありがとうございます。

続きまして、千歳市副市長よりご挨拶を申し上げます。

●千歳市（副市長） 皆様、おはようございます。

今日は、お忙しい中、地域協議会に皆さんご出席いただきまして、お礼を申し上げたいと思います。

また、市の立場からも、日頃から新千歳空港の24時間運用にご理解とご協力をいただいておりますことに改めて感謝申し上げたいと、このように思っております。

コロナ禍にありまして、地域協議会も夏場に開催することはなかなかできませんでした。皆さん方の日頃のお取組のおかげで、今、感染状況も落ち着きを見せているということで、こうして皆さんとの情報共有、また、意見交換の場を持つことができましたことを、市としても大変うれしく思っているところであります。

コロナの関係で少しお話をさせていただきますが、ワクチン接種につきましては、ここに来て、何とか順調に進んでおりまして、夏場におきましては、本日はオブザーバーでご出席いただいております北海道エアポートにご協力をいただきまして、空港の国際線ターミナルでも大規模接種の実施をすることができました。そうしたことから、現段階では、12歳以上の対象者ということになりますけれども、接種率は大体、予約も含めて85%ぐらいまで行っております。ですので、11月中には希望する方全員のワクチンの接種ができる見込みになってきております。これからは、3回目の接種に向けて準備をしている

ところであります。

コロナが発生してから1年半以上が経過して、市民の皆さん、また市内の事業者の皆さんは大変なご苦労されているかと思っております。そういう中で、今後につきましては、感染防止対策の徹底、また、医療提供体制の確保は引き続き取り組んでいきたいと思っております、さらには市内の宿泊費の助成、商品券の販売など、ウィズコロナ、アフターコロナに向けても、徐々にではありますが、様々な取組をこれからも進めてまいりたいと思っております。

引き続き、皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いしたいと思います。

また、一方では、新千歳空港、ただいまご挨拶をいただきましたけれども、国内線におきましては、私も空港に何回か足を運ぶ機会がありますが、このところ、少しずつ回復の兆しが見えていると思っております。

ただ一方、国際線は、昨年来、ずっと運休が続いております。ですので、依然として空港の運営は大変厳しい状況が続いているというところであります。

空港の活況については、地域のみならず、北海道経済全体の振興、発展に欠かすことができないことでもありますので、市といたしましても、北海道、また、北海道エアポート、そして関係団体と連携を取りながら、活気を取り戻すべく、様々な取組を進めてまいりたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いしたいと思います。

本日は、北海道から、現段階における防音工事の関係、また、地域振興の進捗状況などをご説明いただくこととなります。

これからも、24時間運用対策について、しっかりと進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

今日は、どうぞよろしくお願いいたします。

●千歳市（空港政策課長） ありがとうございます。

#### ◎事務局連絡事項

●千歳市（空港政策課長） 次に、次第の3番目の本日の協議会の議題でございますが、（1）新千歳空港における最近の動向について、（2）令和2年度航空機騒音測定結果等について、（3）住宅防音対策の進捗状況等について、（4）地域振興対策の進捗状況等について、（5）新千歳空港周辺地域振興基金について、（6）その他となっております。

次第の下段に配付資料を載せておりますが、資料がお手元がない場合は、事務局までお申し出ください。

本日、これらの説明につきましては、北海道と北海道エアポート株式会社からいたします。

なお、ご意見、ご質問につきましては、各議題の説明の後、随時、お伺いいたしますので、よろしくお願いいたします。

本日の協議会の終了時間については、おおむね11時30分頃を目途にしたいと考えて

おりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

### 3. 議 事

●千歳市（空港政策課長） それでは、議事に入ります。

議題の（１）新千歳空港における最近の動向について、北海道及び北海道エアポート株式会社から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、議題の（１）といたしまして、資料1-1の1ページからご説明をさせていただきます。

新千歳空港における最近の動向というところでございます。

まず、1の（１）、令和3年の夏ダイヤということで、今年の3月28日から10月30日までの深夜・早朝時間帯発着枠の利用状況となっております。

資料では、現時点での運航実績について整理をさせていただいております。今年度につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大による影響により、令和元年度、一番直近で飛行機が飛んでいた時期から比べて12便減少いたしまして、1日最大4便となっております。

表には各社深夜・早朝時間帯発着枠の30枠あるうち5枠使用するということですが、右側の運航日を見ていただきまして、5枠あるうち、1日に最大4便、飛んでいるというような状況でございます。

続きまして、（２）の冬ダイヤでございます。10月31日から3月26日までとなっております。

ここにつきましては、現時点の見込みではございますけれども、30枠のうちの6枠を各社が使用する予定となっております。運航日が毎日となっておりますけれども、この辺り、新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえながら、日に日に変わっていくところと思っております。

続きまして、深夜・早朝時間帯における国際臨時・チャーター便でございますが、一番右側のR2年度、R3年度を見ていただきまして、それぞれゼロとなっております。コロナの影響もございまして、深夜・早朝時間帯発着枠における国際臨時・チャーター便の運航は、この2年間、ゼロとなっているところでございます。

道といたしましては、深夜・早朝時間帯発着枠は、今、あまり活用されていないような状況でございますけれども、コロナの状況等も見ながら、航空路線の需要を段階的に高めていくような取組をしていきたいと考えているところでございます。

新千歳空港における最近の動向に係る道からの説明の部分につきましては、以上になります。

●北海道エアポート株式会社（地域共生部長） では、続きまして、北海道エアポートからご説明いたします。よろしくをお願いいたします。

本日は、このような、我々の運営状況を説明する場を与えていただきまして、ありがと

うございました。

空港運営は、地域の皆様のご理解をいただければ円滑に進まないと思っております。いろいろご意見をいただきながら、丁寧に進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

私ども地域共生部の仕事ですが、主に航空機騒音をはじめとした環境対策、それから、自治体の皆様、経済界の皆様、観光協会の皆様からご意見をいただく地域の協議会の運営を行っております。

さて、冒頭にお話もございましたけれども、ちょうど1年10か月前に、道庁をはじめとして、千歳市をはじめとした空港所在の自治体の皆さんとパートナーシップ協定を締結しました。そして、本格的に運営を始めるやいなや、コロナに遭遇しまして、報道等でもご承知のとおり、空港運営も大変厳しい経営状況になっております。非常に皆様にもご心配をおかけしているのですが、逆風が強いほど飛行機が高く上がると言いますので、これを機会として、なるべく早期に巡航速度に上がるように努めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

お手元の資料1-2でございます。新千歳空港の近況ということで、そこに発着便数、それから旅客の輸送実績を掲載してございます。冒頭、道庁並びに千歳市からもお話があったように、非常に運航状況は厳しい状況でございます。特に、旅客実績は40%に満たない状況ですが、10月に入って、修学旅行生が数多く空港で見られたり、我々の肌感覚ですが、かなり復便というか、お客さんが戻ってきていると感じられます。

今後、コロナの状況にもよりますが、何とかうまく進めるようになればと祈っておるところでございます。

発着便数のほうでございますけれども、国際的に旅客が動かないものですから、貨物便を使用した物流の動きが韓国をはじめとした諸外国でありました。それで、我々も、着陸料の補助を行って貨物便の運航誘致を行いました。特に、香港、中国、台湾に向けたホタテ等の物量が大きかったのですが、そういった形で、前々年比70%ぐらいの便数は確保できたと思っております。

今後の状況につきましては、国内便は何となく手応えが出てきましたが、国際線に関しては、復便になるのは2023年後半というお話もございます。先だって、2週間ほど前に、世界のエアラインと空港運営会社200社ぐらいがオンラインで集まって、いろいろな情報交換がございました。我々は、ヨーロッパのエアラインとか、それから、中国、アジアの方々ともお話ししましたが、各社とも復便に対しては非常に意欲的ではあるのですが、今しばらくは模様眺めの状況が続いているというところでございます。

あとは、参考までにお話ししたいと思っておりますが、新千歳空港の運営に関する協議会というものを開催しております。協議会は、自治体、経済団体、観光協会等々のトップの方々、幹事会は事務方の方々に年に2回ずつ開催しておりますので、いろいろご意見をいただいております。

そういう中で、今、議論の中心はアフターコロナということで、これから、国内外において、この千歳を中心としたところで周遊していただくということをいろいろ考えていかなければならないという形になっております。

新千歳空港は、我々にとっても、7空港の牽引役で、非常に大事な空港と思っておりますので、これから注力していきたいと思っております。

先だって、千歳科学技術大学の先生が、飛行機を降りてから2次交通に乗る動画を製作されまして、これを普及していこうということで、我々のホームページとも連携したりしていく、それから、空港を、やはり分かりやすい空港にするために、ピクトグラムということで、オリンピックのときに少し話題になりましたけれども、こうしたものも使いながら、空港の利便性を増していくような取組を今後行う予定です。

それから、先ほど副市長からお話ございましたが、我々も新千歳空港で職域接種を実施しました。従業員とその家族が中心なのですが、千歳市の皆さんにも参加していただいて、2,300名ほど接種をしていただきました。ありがとうございます。

今、我々は社員が400名ほどおりますが、その多くが千歳市に住んでございまして、千歳の市民として皆様と一緒に、共に生活させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

これから何とかアフターコロナに向けて頑張っていきたいと思いますので、ご指導をまたいろいろよろしくお願いいたします。

●千歳市（空港政策課長） ただいまの説明について、ご意見、ご質問等がございましたら、挙手の上、ご発言をお願いいたします。

ありませんでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） 特にないようでしたら、議題（1）新千歳空港における最近の動向については報告済みとさせていただきます。

次に、議題の（2）令和2年度航空機騒音測定結果等について、北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、令和2年度の航空機騒音等について、資料2-1から2-3によりご説明をさせていただきます。

まず、3ページ、資料2-1をご覧ください。

令和2年度の民航機の騒音測定結果についてでございます。

上半分が千歳市の測定結果となりますけれども、航空機騒音の測定局につきましては、千歳市内におきましては、北海道が設置しております東郊局などの9局と、千歳市が設置しております、青葉丘局など8局の計17局において測定を行っているところであります。

表の令和2年度の部分を見ていただきまして、年間L d e n値と民航L d e n値を記載しております。

年間L d e n値につきましては、千歳飛行場を離着陸する自衛隊機を含む全ての航空機



騒音を集計した結果となっています。また、右側の色がついた部分、民航L d e n 値につきましては、自衛隊機の離着陸のなかった日、民航機のみ航空機騒音を測定した日とみなしまして集計した結果となっております。

下の囲みのところがございますが、令和2年度の集計対象日数の117日が自衛隊員の訓練のなかった日ということで、この音を測定いたしまして民航L d e n 値という形としております。

令和2年度の千歳市における測定結果につきましては、表の右の色がついた部分となっております。令和元年度と比較していただきますと、民航L d e n 値につきましては、稲穂局、青葉丘局、住吉局の24時間運用の対策区域外となります3局において昨年度の値を上回る結果となっておりますが、梅ヶ丘局など11局が昨年度を下回る結果となっております。

いずれにしましても、全ての測定局で対策の目安となる環境基準を下回っているという状況となっております。

それでは、資料2-2、4ページをご覧ください。

遅延便の深夜・早朝時間帯の使用状況についてご説明させていただきます。

この資料で遅延便といいますのは、30枠以外の便で出発ないし到着が予定より遅れたことにより深夜・早朝時間帯を使用した便のことを指します。

上から、航空会社別便数ということで、一番右の合計数をご覧ください。

平成30年、令和元年ともに300以上の遅延便があったところがございますが、昨年度につきましては、コロナの影響で航空機の数も大分減っているというところもありまして、37便となっております。航空会社別でいいますと、JALが一番多く、全体の35%ということになっております。

次の表をご覧ください。

遅延理由別便数については、例年、平成30年、令和元年と天候が四十何%というところですが、令和2年度につきましては、機材故障が一番多い41%という結果となっております。

一番下の表をご覧ください。

時間帯別の便数となります。

遅延便は何時頃に離着陸したのことが多いかというところを示した表でございます。一番左側の22時から22時19分の時間帯が約半数の49%となっております。左から三つの22時59分まで、いわゆる22時台の遅延が89%と、90%近くというような状況となっております。以上から、遅延した便につきましては、大体1時間以内に離着陸しているものがほとんどであるという状況となっております。

資料2-3、5ページをご覧ください。

千歳市側と苫小牧市側の着陸の状況についてです。

まずはじめに、下の囲みの中をご覧ください。ただければと思います。

着陸の方向につきまして、この資料は昨年度から説明させていただいていますが、千歳市側については旭ヶ丘局、苫小牧市側については植苗局という空港から一番近い騒音の測定地点における騒音の状況を見まして、飛行機が着陸してきたところを騒音のデータ上でカウントしているというところでございます。

双方の測定局の計測値から判断いたしまして、7時から22時まで、22時から7時までのいわゆる深夜・早朝の時間帯に分けて表を整理させていただいております。

時間帯の区分に関しては、昨年については7時から20時ということで分類させていただいたのですが、昨年度の協議会におきまして、深夜・早朝時間帯に合わせて22時とするべきではないかというご意見を頂戴しましたので、今年度につきましては22時で分けて整理をさせていただいております。

また、昨年度、この表は着陸と離陸のデータを音声で拾って載せていましたが、離陸については、新千歳空港を発着する航空機につきましては、離陸後、北に飛び立って、旋回して東京方面をはじめ南下するものが多いというところがございます、苫小牧側の測定局で離陸の音についても計測してしまうケースが多々あり、音声の計測値から正確な離陸数を把握することが難しいということが分かりましたので、今年度の資料につきましては、着陸数のみで示させていただいております。

それでは、上の表をご覧ください。

令和2年度の着陸数についてでございます。

一番右側の合計数を見ていただきまして、全体で千歳市側が2万1,605回、苫小牧市側からの着陸が6,391回であり、千歳側の着陸が多くなっております。割合では、千歳側が77%、苫小牧市側が23%となっております。

時間帯別で見ますと、千歳側7時から22時までが2万1,434回、苫小牧側が6,353回で、割合では千歳側が77%、苫小牧側が23%という形になっております。

深夜・早朝時間帯発着枠、22時から6時59分までの間については171回と38回であり、割合では千歳側が82%、苫小牧側が18%となっているところでございます。

先ほど、データでお示しするのは着陸だけということをお話ししましたが、一番下の補足のところにありますとおり、着陸してきた反対側に離陸していくというふうに考えますと、ほぼ逆の回数が離陸の回数になるだろうということで、離陸の回数、千歳側が約6,400回、苫小牧側が2万1,600回と推定されるのではないかとということで整理しております。

令和2年度航空機騒音に関する一連の説明につきましては、以上のとおりとなります。

●千歳市（空港政策課長） ただいまの説明について、ご意見やご質問等がございましたらお願いいたします。

●A委員 この中身の話ではないんですが、今回、この測定局の機器更新か何かがあったと思うんですよ。これまで、建物の中に測定の結果をまとめてデータを揃えるような機材があったと思うんですけれども、今回、更新されまして、そういう建物がなくなりました。

我々の町内にとっては、建物がなくなったことで、子どもたちが自由に遊べるようになったんです。

そこで、この機器を、今回、北海道エアポートさんが支援してくれたということについては、当然、千歳市も、おそらくどこかの機会で話されたと思うんですけども、この機器の設置に当たって、防衛省、千歳市、その中で北海道エアポートさんも支援をされているわけですよ。そういうことを千歳市として何かコメントする必要はなかったんでしょうか。

これは、防衛省の関係だから24時間には関わりはないという話ではないと私は思っております。これだけ会社ができる間もなく、時間も経っていないにも関わらず、こういう支援をしていただいたということは、私ども地域にとっては、以前の会社と違ったなという実感を味わっております。

そういうことで、私は感謝を申し上げたいと思っております。

それともう1点、6枠からこの枠拡大のために測定局をつくったのですよ、道が、個人の宅地の中に。これは、今でも活用されているのかどうか。

現に、敷地の中に電柱を2本立てて、測定機材を掲げて、電話回線か何かは分かりませんが、いまだに繋がっております。これって、今現在、どういう状況にあるんでしょうか。

道側としては、何か、これに対するコメントはありますか。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） まず、道の測定局についてですけども、基本的に測定は継続してやっているのですが、我々は、その設備自体がどういう形になっているのかというところの現状まで掘りこんでいるものがございませんので、すみません、そこは確認をさせていただきたいと思っております。測定は測定ポイントで引き続きしているのは間違いのないところでございます。

●A委員 現在、その測定局は運用されているわけですね。そのデータはどこへ行っているのか、ここに反映されていませんよね。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 今、道の測定局は9か所あるということで、その表の上から、東郊局、梅ヶ丘局、富丘、稲穂と9局お示ししていますが、それ以外の地点のイメージでよろしいでしょうか。

●A委員 寿1丁目に設置されています。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 寿については、道の測定局がございませんで、千歳市の測定局なのかなというところですが。

●A委員 千歳市であれば、この測定結果のデータをどういうふうに活用されているのかですね。

●千歳市（空港政策課長） 先ほどのご質問にお答えいたしますと、まず、千歳市内の航空機騒音の測定局については、民航機の騒音エリアになりますと、北海道エアポートからの助成を受けて、航空機騒音の常時測定の機械の更新をさせていただいております。

データについては、本庁舎とオンラインで常時繋がっておりまして、騒音が発生する都度、確認できるようになっております。

北海道エアポートから助成いただいたものにつきましては、よく見える場所に、北海道エアポートから助成をいただいたということの表示をさせていただいておりまして、それから、データにつきましては、先ほど北海道からご説明ありました年間のL d e n値等の計測に使っております、こちらのデータを基に、いろいろな対策に取り組んでおります。

それらのデータについては、千歳市の環境課のほうで発行している環境白書でお示ししているところであります。

北海道エアポートからの助成につきましては、千歳市としても大変ありがたい財源だということで活用させていただいておりまして、そのほかにも町内会の備品整備や、あるいは学校の備品整備等にも充てさせていただいております。

●A委員 市が設置したということですよ。市が設置したのであれば、確か6 枠の以後、枠拡大に伴う騒音の測定データを得るために私は設置したと聞いているんですよ。その結果、何も公表されていませんよね。環境白書の中でという話ですが、それって、現在、環境白書の中にしか利用されていないんですか。

●千歳市（空港政策課長） すみません。どちらの測定局のお話になりますか。

●A委員 寿1 丁目です。

●千歳市（空港政策課長） おそらく、30 枠合意とか6 枠とかそういうのではなくて、元々古くから千歳市のほうでは騒音の測定をしております、新千歳空港ができた際に、航路も少し変わっておりますので、それに合わせて実際の航路下、千歳市の場合、自衛隊の騒音もありますので、自衛隊の航路も合わせて、どの航路で取れば一番飛行機の音が拾えるかということで、いろいろ、臨時局などを設置しながら、それを常設局に移していくという形で現在の局舎の状況になっております。

データについては、環境白書ということもお話ししましたが、こちらの資料2-1のほうでもお示ししているとおりであります。

●A委員 ここでは、寿1 丁目という名称は出てきていませんよね。

●千歳市（空港政策課長） 千歳市の上から四つ目の寿と書いてあるのがその局舎になります。

●A委員 これは、寿の公園に設置してあるデータなのか、それとも1 丁目のところに設定しているデータになるんですか、どちらですか。

●千歳市（空港政策課長） ここの寿は、公園のところに、一角にある町内会の……

●A委員 会館の横ですよ。

では、個人の住宅に設置しているものについては、環境白書のみなのですか。

●千歳市（空港政策課長） すみません。個人の住宅の部分は私どもも承知していないのですけれども、おそらく、臨時で測定することはありますので、状況を確認してほしいという要望があったときには、環境課のほうで機器を設置して測定をしていますが、今おつ

しゃられている個人宅の部分は私も承知していません。

●A委員 枠拡大のデータを得るために、その地主さんがそう言いましたよ。枠拡大のデータを得るために設置されたと言っています。現に設置されているのです。

よろしいですか。時間もかかりますが、この会議が終わったら、道と千歳市さんで現場を確認してください。どこが設置したのか、市が設置したのか、道が設置したのか。この現場を確認して。地主さんにいつどうなっているか。地主さんは運用されているということを書いてますよ。電話回線でデータを毎回ずっと送っているはずですよと言っていますので、現場を確認していただいて、どちらが設置したのか、そのデータがどう活用されているのかを確認してください。

●千歳市（空港政策課長） 分かりました。

今のお話は、後ほど確認して、ご説明したいと思います。

ほかに意見はございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） 特にないようでしたら、議題（2）の令和2年度航空機騒音測定結果等については報告済みとさせていただきます。

次に、議題の（3）住宅防音対策の進捗状況等について、北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、資料3-1の6ページをご覧ください。

住宅防音対策の進捗状況等について、令和2年度の実績等を、左側から順番にご説明いたします。

表の中の数字は、高齢者優先枠を含めた数字となっておりますが、まず、意向調査を提出していただいた件数が、一般住宅で1,726件、世帯数で1,769世帯、集合住宅でいうと127件の768世帯、合計で1,853件、2,537世帯という状況でございます。

右に行ってくださいまして、一般住宅383件、398世帯ということで上から合計で401件、551世帯の工事が令和元年度までに終了しているところでございます。

昨年度、令和2年度の工事実績を見ていただきまして一般住宅で70件、74世帯、集合住宅で11件、49世帯を工事しており、合計で81件、123世帯というような形になっております。

そのうち、うち繰越分という数字がございますが、その前の年、令和元年度に工事ができず、令和2年度に繰り越したものが内数としてそこにございます。合計で5件、11世帯については、その前の年から繰り越してきて工事を行ったところでございます。

今年度につきましては、令和3年度の計画数というところでございます。一般住宅114件、122世帯、集合住宅10件、61世帯、合計で124件、183世帯を工事するという予定になっております。

この124件、183世帯の内訳が、その下に詳しく載っております。「2 令和3年

度の実施計画について」というところをご覧くださいと思います。

124件、183世帯のうち、令和2年度から繰り越してきた分というのが29件、34世帯ございました。昨年度、やはり新型コロナウイルス感染症の関係で工事を敬遠された方が非常にたくさんございました。現地調査に入ってほしくない、工事業者が自宅に入ってほしくないという方が多数おられまして、昨年度から今年に繰り越した分が29件、34世帯ということで、先ほど上の表で令和元年度から令和2年度に繰り越した方が5件、11世帯あったとお示しましたが、その約3倍ぐらいの繰越が発生したという状況となっております。

上の表に戻っていただきまして、合計についてです。今年度までで606件、857世帯を工事できる予定となっております、実施率といたしましては、件数としては32.7%、世帯数としては33.8%となっているところでございます。

既に10月まで来ておりますので、10月1日現在の進捗状況を財団のほうから教えていただきました。R3の計画数124件、183世帯のうち、10月1日現在で113件、147世帯が、今、着工済みとなっております、既に昨年の工事実績81件、123世帯はもう10月時点で超えておりますので、今年度については、繰越分も含めまして、昨年度より順調に進んでいるという状況となっております。

住宅防音工事につきましては、北海道エアポートにもご協力をいただいておりますので、引き続き財団、市と連携いたしまして、目標としております200世帯を目指して取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

1ページおめくりいただきまして、7ページとなります。

高齢者優先枠の令和2年度の実績等というところをご覧ください。

高齢者優先枠の令和2年度における工事実績につきましては、合計の部分を見ていただきまして、8件、9世帯を実施しております。令和3年度につきましては、同じく、8件、9世帯を予定しております。こちらにつきましても、10月1日現在で、そのうち7件、8世帯が着工済みでございますので、ここも目標に向けて、今後、10月、11月、12月まで工事を頑張っていきたいというところでございます。

高齢者優先枠につきましては、令和4年度以降、おおむね25件ぐらいの件数を工事いたしまして、令和6年ぐらいで工事を完了したいというふうに予定しております。

次に、令和3年度の現地調査の状況についてでございます。

一番左から、4月19日から23日というところの第1次からスタートしまして、第2次が7月26日から30日まで、少し間が空いています。この間は、緊急事態宣言等が出たということで、一時、各お宅にお伺いすることを中断していましたが、7月からまた再開いたしまして、12月上旬まで現地調査を進めているところでございます。

今年度の予定につきましては、127件の現地調査ということで、世帯数でいきますと217世帯を予定しているところでございます。

その下をご覧ください。

住宅防音工事の流れということでございまして、もう皆さんご存じのところだと思いますけれども、2か年かけてやっております。初年度に現地調査と設計を行って、その翌年に工事しておりますというところを改めてお知らせさせていただいております。

その下に、工事に関するご相談、例えば、うちは一体いつぐらいに工事ができるのだろうかというような部分ですとか、例えば、家族構成がちょっと変わりました、両親と一緒に住むことになったので、高齢者が一緒に住むようになりましてというようなことがございましたら、当財団のほうまでお問合せや、ご相談をしていただければと思います。財団の連絡先を載せておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後です。参考として掲載しておりますが、財団の組織関係ということでございまして。事務局9名ということで、9名体制は昨年度から変わらないのですがけれども、一番下に「主査等⑤」と書いてあるところに「市OB①」とありまして、昨年度まで千歳市のOB2名に来ていただいていたところでございますけれども、その方の任期が切れまして、今年度、千歳市のOBの都合がつかないということがございまして、市のOBが1名ということになりました。住宅防音工事の進捗に影響が出て困りますので、代わりに主事①ということで、臨時職員を1名雇用いたしまして、体制としては9名体制でこれまでどおり工事が進むというような形としております。

資料3-1につきましては、以上となります。

続いて、資料3-2、8ページをご覧ください。

防衛省官舎（寿官舎）に係る住宅防音工事の実施についてというところでございまして。

現在実施しております住宅防音工事におきましては、防衛省官舎や北海道警察の公宅、公営住宅、市営住宅について、それぞれの施設における将来の改修計画等を考慮するところがございます。工事の実施につきましては、管理者から要望があった段階で個別に協議を行った上で行うとしていたところでございます。

この度、防衛省寿官舎の管理者であります東千歳駐屯地から、工事に関する要望を受けましたので、道、千歳市、財団において協議を行いまして、今後、工事を進めたいというところで考えてございます。

2番の工事の内容をご覧ください。

工事につきましては、30枠対策における住宅防音工事は実施せず、住宅防音工事を補完する対策といたしまして、原則、寝室に冷房装置を設置するという形で進める予定としております。こちらは、防衛省のご希望もございまして、こういう形となっております。

3番の実施時期につきましては、防衛省官舎が所在します地域における集合住宅の防音工事の進捗状況を勘案するというところで、今、ちょうど寿のほうも住宅防音工事が進んでおりますので、一般住宅の進捗を踏まえて進めていくというところなんです。ただ、戸数が多いので、一般住宅の工事とのバランス等を考え、少し平準化をいたしまして、来年度から複数年度にかけて段階的に実施をしていきたいというふうに考えております。

次に、資料3-3、9ページになります。

集会施設、町内会館に係る住宅防音工事の調査結果についてでございます。

昨年度の地域協議会におきまして、助成の対象となる集会施設及び工事内容等につきましてご説明をさせていただいたところです。その後、対象となる集会施設を持ちます六つの町内会に対しまして、千歳市を通じ、希望する工事实施時期や工事内容について調査を実施いたしました。そのご希望をいただいた部分につきまして取りまとめ、表に並べております。

六つの町内会のうち、五つの町内会から工事を希望する旨の回答を受けておりまして、それぞれ工事の時期についても、ご希望をいただいたところでございます。

今後、この調査結果を基に、事業費や具体的内容を踏まえた工事の検討につきまして、各町内会と我々と財団と千歳市と併せて協議を個別に行いまして、工事の時期、内容を決定し、工事を進めていくということとしております。

それぞれの工事につきましては、実施が決まりましたらまた改めましてご報告をさせていただきたいと考えております。

住宅防音対策の進捗状況に関する一連の説明は以上とさせていただきます。

●千歳市（空港政策課長） ただいまの説明につきましてご意見やご質問等がございましたらお願いいたします。

特にありませんでしょうか。

●A委員 工事の関係についてお伺いしたいと思います。

北海道は毎年、北海道単価を見直ししておりますよね、いろいろな部分で。24時間の防音工事についても当然やっているものと私は思っているんですが、この件についてはどうなのでしょう。

●公財）新千歳空港周辺環境整備財団（管理課参事） 単価につきましては、毎年、見直しを行っているところでございます。

●A委員 毎年、道の建設部局が道単価を公表しているという話は聞いております。その中で聞きたいのは、公共工事設計労務単価と住宅防音工事設計労務単価は、どう違うんですか。

●公財）新千歳空港周辺環境整備財団（管理課参事） 私ども財団のほうで使っている単価は、道の単価と違う単価を使っております、防衛局に準拠した単価を使っているところでございます。ですから、道の単価とは連動していないという状況になっております。

●A委員 それは、あくまでも千歳市で、この24時間の防音対策工事に係る単価を設定しているわけですね。

●公財）新千歳空港周辺環境整備財団（管理課参事） そうです。防音工事の単価という形です。

●A委員 道の単価とは別にですね。

●公財）新千歳空港周辺環境整備財団（管理課参事） 別になっています。

●A委員 分かりました。



もう一点伺いたいんですが、最終的に防音対策の工事を申請しますよね。申請された後に、道のほうから、補助金が承認されましたということで、それぞれの世帯に送りますよね。その金額のことについて伺います。

財団のほうは、いろいろな資料が整って「工事に着工してもいいですよ」ということで、工事を申請した方に、住宅防音工事助成交付金決定通知書というものを送りますよね。

●公財) 新千歳空港周辺環境整備財団 (管理課参事) はい。

●A委員 その中で、工事費、それから、設計監理費と代行手続と諸々分けております。そして、最終的な金額が私のところに来たんですよ。防音と地域振興策と合わせた金額は200万と決まっていますよね、合計金額は。

●公財) 新千歳空港周辺環境整備財団 (管理課参事) 今おっしゃったのは、補完工事100万円、基金工事100万円で、合わせて200万円ですね。

●A委員 そうです、200万。

それで、たまたま私のところにこの書類を持ってきて言われたことが、200万を超えていると。それで、私にそれを見せてくださいということで、今、手元にあるんですが、218万3,000円という決定通知書が来たんですよ。そうしたら、決定通知書の中で18万3,000円、これは自己負担なんですかって来たから、いや、そんなことはないですよと、高齢者ですから、びっくりして、来たわけですよ、自己負担だと思って。金額はあくまでも200万までということは頭の中にあっただけです。ところが、決定通知書には、超えた金額が載ってきたんで、びっくりした。自己負担分があるんだなど。これは、私は見てすぐ分かったんですけど、やはり高齢者の人たちは頭の中に200万ということしかないんですよ。それで、これが来ると、やはり自己負担があるんだなどということがかすめるわけですよ。

そういったことで、できれば、この決定通知書の中に、自己負担はありませんよと。これで別な工事をすれば自己負担はありますよね。あくまでも財団が設計事務所さんから来た金額に基づいてこの決定通知書を出すと思うんですけど、先ほど言われましたように、道の単価ではなくて別の単価で計算しているということですから、当然、200万を超えるわけですよ。その辺どうですか。

●公財) 新千歳空港周辺環境整備財団 (事務局長) 工事金額についてでございますけれども、今申し上げたように、補完工事、基金工事100万ずつのほかに、本体工事というものもございますので、もちろん、そちらが工事のメインにはなります。本体工事は、限度額というものがございませんので、メニュー的には、住宅の状況によりまして、そういった複数メニューを組み合わせ、その合算額、それが助成金額になりますので、おそらくそこら辺が、超える超えないという頭と、あとは本体工事との合算額と、そこら辺の行き違いといいますか、見てすぐ分からなかったということだと思います。

それから、工事単価については、先ほど申し上げたように、北海道と違うというのは、防音工事という特殊性、そういったものに鑑みますと、北海道に準拠するよりも、同じ工

事内容を行っております防衛局、そちらのほうに準拠したほうが、より皆様の実態、工事の実態、そちらのほうに合っているということで準拠しておりますので、実態としては、今のところ、単価が低いとか高いとか、そういったお話というのは来てないですけども、ただ、それは、工事業者及び設計業者の方、そこと密に連絡を取りながら、工事の施工主の皆様にはご迷惑のかからないように考えてございます。

また、自己負担のお話でございますけれども、実際に我々、普段、運用上、自己負担が生じないようにというお話は聞いていますが、制度上、自己負担が生じる可能性はございますので、そこは運用の中でうまくやられて200万ですとか、そういったようなお話はあるんですけども、制度上は、本来であれば、超えた分はお支払いいただく、超えない分について現金でお支払いするとかということはございませんので、その枠内で考えていただくということですので、自己負担はありませんよというのを交付決定書に実際に印刷するというのはなかなか難しい面もあると思いますので、我々としては、疑問等がございましたら、どんどん財団のほうにお問合せをいただいて、そちらのほうで個別具体的に対応させていただいたほうがお互いに分かりやすくなると思いますので、ぜひそういう方法を取らせていただきたいと思います。

ご理解のほどをよろしくお願いいたします。

●A委員 この件については、多分、財団のほうに言ったと思うんですよ。もう過去の話ですので、そういうことで、もっと高齢者に対する部分については、何か分かりやすいような方法を考えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

●公財)新千歳空港周辺環境整備財団(事務局長) 今のお話のように、やはり、対象の方はお年を召した方が大変多くございますので、お電話を頂戴しても、なかなか電話ですと、メニューも複雑ですし、組合せになりますので、分かりにくい部分が多々ございますので、皆様方におかれましては、疑問等があれば、財団のほうにどんどん電話をしていただいて、我々、そちらのほうで真摯に対応させていただきますので、住民の皆様にも、ぜひ財団のほうに気軽にお問合せをいただいて、我々も、そのようなお問合せを通じて勉強させていただくいい機会にもなりますので、今後ともひとつよろしくお願いいたします。

●A委員 分かりました。ありがとうございます。

●千歳市(空港政策課長) ほかにご発言はございませんでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

●千歳市(空港政策課長) ないようですので、議題(3)住宅防音対策の進捗状況等については報告済みとさせていただきます。

続きまして、議題の(4)地域振興対策の進捗状況等について、北海道からご説明いたします。

●北海道(新千歳空港周辺対策担当課長) それでは、資料4、10ページをご覧ください。

地域振興対策の進捗状況ということでご報告させていただきます。

はじめに、一番上の事業の概要等というところでございまして、千歳市の地域振興対策につきましては、平成27年の30枠合意の際に、毎年2億6,000万を10年間で積み立てる、総額26億円の基金を設置いたしまして、その基金を活用して、住宅防音の維持拡充等に関する防音機能維持・拡充等対策事業、そのほか、C工法の区域においてB工法に嵩上げする防音機能確保対策事業、4地域において施設整備等を行う生活環境整備事業、そういった三つの部分で実施することとしているところでございます。

現在、千歳市と財団のほうが主体となってこの取組を行っているところでございます。

2番をご覧ください。

事業の執行状況等ということで、令和2年度、2億6,000万円を造成しております。そのうち約6,360万円を執行しておりまして、約1億9,639万円を繰り越しているという状況でございます。

令和3年度につきましては、昨年度と同様に2億6,000万円を造成し、執行見込みが1億5,000万円、1億1,000万円を繰り越す見込みとなっております。令和3年度末においては、合計で8億2,934万円が繰越額の合計となっているところでございます。

3番、事業の進捗状況等をご覧ください。

防音機能維持・拡充等対策事業及び防音機能確保対策事業につきましては、先ほどご説明いたしました住宅防音工事とセットで実施をしております。令和2年度につきましては、実績として62件を実施いたしまして、令和3年度は105件の見込みとなっております。事業費といたしましては、令和2年度は6,065万9,500円ということになってございます。

令和3年度、先ほど105件とお話いたしましたですが、事業費は1億1,000万円を見込んでいるというところでございます。

その下、4地域で実施いたします生活環境整備事業というところで、上から順に、根志越エアカーゴ対策協議会、根志越温泉施設改修事業につきましては、平成29年度に完成いたしまして、6,000万円を支出しているところでございます。

2番目、中央長都、中央釜加線道路整備事業につきましては、令和2年度に測量及び実施設計を行いまして、294万8,000円を支出しており、今年度、舗装工事を実施しておりまして、4,000万円の支出を予定しているところでございます。

3番目、駒里連合会の駒里町内会館改修事業につきましては、平成30年8月に完成しておりまして、6,000万円を支出しているところでございます。

一番下、祝梅町内会の祝梅第一道路整備事業につきましては、平成28年12月に完成しておりまして、約4,000万を支出しているという状況となっております。

道といたしましては、事業の円滑な実施につきまして、市、財団とも連携を取りまして、引き続き地域振興対策について取り組んでまいりたいと考えてございます。

私からの説明は以上となります。

●千歳市（空港政策課長） ただいまの説明につきまして、ご意見やご質問等がございましたらお願いいたします。

（「なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） 特にないようでしたら、議題（４）地域振興対策の進捗状況等については報告済みとさせていただきます。

次に、議題の（５）新千歳空港周辺地域振興基金について、北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、続きまして、１１ページ、資料５をご覧ください。

新千歳空港周辺地域振興基金についてでございますが、この基金、いわゆる３０億基金と申しており、６枠合意に基づいて設置をしたものというところでは、造成目標額３０億円に対して令和元年度末の造成額が１９億５，８１０万円となっており、令和２年度、３社から９０万円のご寄附をいただいたところ、令和２年度末の造成済額は１９億５，９００万円となっております。

今回の３０枠合意を契機といたしまして、道内で事業活動をされている企業を中心に基金造成の協力要請を行ってきた結果、現在のところ、１７社から１億１，６８０万円の寄附の表明をいただいているところでございます。

これまでに寄附いただいた主な企業は、囲みの中のとおりとなっております。

令和２年度からになります。新型コロナウイルス感染症の拡大の影響によりまして、道内企業も、今、厳しい状況にあるというところもございまして、企業等に対する個別の協力要請を中断しているような状況にございます。

今後の感染状況や社会情勢を見ながら、道経連、経済界等とも、基金の確保に関しまして、要請の再開というところのタイミングをご相談してまいりたいというふうに思っております。

なお、基金の造成目標額の未達成分に関しましては、道から１．５％金利見合いということで、毎年約１，５００万円を補助するという形とさせていただいております。財団のほうから各町内会に対する配分につきましては、これまでと同じような額が確保できるようにさせていただいております。

新千歳空港周辺地域振興基金に係る説明につきましては、以上のとおりです。

●千歳市（空港政策課長） ただいまの説明について、ご意見やご質問等がございましたらお願いいたします。

特にありませんでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） ないようでしたら、議題（５）新千歳空港周辺地域振興基金については報告済みとさせていただきます。

最後に、これまでの議題以外でも結構ですので、皆様から何かご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

(「なし」と発言する者あり)

#### 4. 閉 会

●千歳市（空港政策課長） 特にないようですので、以上をもちまして、令和3年度第1回地域協議会を終了させていただきます。

本日は、お忙しいところをお集まりいただき、ありがとうございました。

以 上